
グラジオラス

Euphonium

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

グラジオラス

【Nコード】

N5264BA

【作者名】

Euphonium

【あらすじ】

都会でもなければ田舎でもない。裕福かつて聞かれるとそんなに裕福じゃない。しかし貧乏なわけでもなく、借金取りに追われる生活もしたことはない。ごく普通の双子たちが巻き込まれる、決して普通ではありえない『ある事件』。双子たちがそんな事件に巻き込まれた鍵は、両親とともにおとずれた公園に咲いていた、小さな花。桜やバラみたいにかわいい花とかではなく、葉は剣のようにとがっている。しかも野生ではなく観葉植物だ。しかしなぜか双子たちには目を輝かせるほど綺麗に見えた。

プロローグ

「走ったら転ぶぞ」

遠くから父さんが言っていた。あの頃はあまり運動してないんだからそあんなに走って大丈夫だったのだろうか。母さんも私たちの名前を呼びながらその後についてきていた。

『大丈夫だよ』

私たちは二人同時に言った。父さんたちはそれを聞いて微笑んだ。それはいつも見ていた私たちをなだめる為にする笑みではなかったと今は思う。

『あつ！！』

私たちは前方にある赤いものを二人同時に見つけた。そして赤いものに向かって私たちは走った。その赤いものにたどり着くとその前にしゃがみ、それをじつと見つめた。それは鉢植えに植えられた真っ赤な花だった。しかも縦一列に花が並んでいる。

『見てみて父さん、母さん。綺麗なお花』

そう言つて、その中のひとつを折って後ろをついて来ている二人に見せようと振り返ると、さっき私たちが通った道路を渡っている父さんと母さんがいた。二人とも疲れたらしく、走ることはもうやめていた。

もう、と私たちはため息をつき、父さんたちのほうへ行こうと立ち上がり、スカートをはいた。すると突然激しい車の急ブレーキ音が聞こえてきた。それと同時に女と男の悲鳴が聞こえた。耳をふさぎたくなるほど大きな音だった。驚いて振り返るとそこは血の海と化していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5264ba/>

グラジオラス

2012年1月14日16時46分発行